

《調査報告》

新型コロナウイルス感染症が外国人留学生に与える 影響とサポート体制の検討

—札幌大学の外国人留学生を対象にして—

尾崎寛幸・久野弓枝

1. はじめに

2020年、新型コロナウイルス感染症(covid-19)が世界中に広がることによって我々の生活は一変した。大学もその例外ではなく、学生たちは様々な形で影響を受け、殊に4月の新学期において、キャンパス内で学生たちはほとんど活動することができなかった。中でも外国人留学生の活動に与えた打撃は大きく、入国制限などもあったこともあり、札幌大学に入学できた外国人留学生は9人(うち2人が日本未入国)しかいなかった。母国へ一時帰国していた外国人留学生の中には入国できず、母国から参加できるオンライン授業しか受講できない学生もいた。

本稿の執筆者の一人である尾崎は国際交流センターの専門員として、もう一人の執筆者である久野は外国人留学生の日本語クラスを担当しており、外国人留学生から悩みを聞くことが多くなった。外国人留学生の悩みの中には、「アルバイトがなくなって困った」、「帰国したいが帰れない」、「友だちができない」といった切実なものもあった。筆者達は個々の状況に応じて外国人留学生を支援しようと努めてきたつもりだが、あまりに未曾有のことであったがために、それが十分なものであったとは言いがたい。

新型コロナウイルス感染症が与える学生への影響について、すでにいくつかの先行調査はあるが、多くは学生全般に関するものであって、外国人留学生の特性を踏まえて行った調査はまだ少ない。また、個々の外国人留学生の状況は地域や大学の規模等によって大きく異なることから、他の大学や都市

圏の調査は今後の資料としては貴重だが、そのまま札幌大学の現状とすることには慎重であるべきだと考える。

以上のことから本稿の目的は、新型コロナウイルス感染症が札幌大学の外国人留学生に与えている影響をアンケート調査により概観し、考えられるその支援体制について、外国人留学生の環境を踏まえながら考察するものとする。

2. 先行研究

新型コロナウイルス感染症が外国人留学生に与える影響に関して、留学生教育学会と全国大学生生活協同組合連合会が実施した調査は外国人留学生の状況を概観する上で参考になる。全国大学生生活協同組合連合会は、2020年度5月に全国の外国人留学生に調査を行い、174名から回答を得ている。それによると、第1に、アルバイトの収入が減少し家計収入が減った外国人留学生は全体の60%を超えており、経済面で不安を抱えている外国人留学生が非常に多いことが明らかになった。また、体調に何らかの不調を感じている外国人留学生は76%にも上っており、外国人留学生の中には新型コロナウイルス感染症の拡大によって差別的な取り扱いや不利益な扱いを感じている人たちもいる。情報が不足していると感じている声も寄せられている。一番不足している情報は「経済的な支援について」、次いで「授業について」、「活動制限について」であったと報告されている。

一方、留学生教育学会は2020年4月に「新型コロナ流行と留学事業について緊急アンケート調査」と題した調査を行い552名の回答があった。それによると、外国人留学生の92%が留学を継続して頑張りたいと回答しており、家族の約7割も子ども達の留学継続を望んでいる。

「一番、困っていることは何か」という質問に対しては、金銭が28%で一番多く、次いで、進路（進学・就職）・生活、で各21%であった。また、新型コロナウイルスの情報源についても調査を行っている。一番多い回答は、日本のマスメディアやSNSで65%、次いで、母国のマスメディアやSNSが

56%であった。さらに、外国人留学生が政府や学校に期待する支援は①金銭的支援、②英語での情報提供、③学習における支援、④精神面での支援、⑤新型コロナウイルスの感染を防ぐための物資の提供であった。

これらの2つの調査から、外国人留学生は新型コロナウイルス感染症の拡大にともなって、経済的な問題だけではなく、情報提供など複合的な問題を抱えていることが明らかになった。そのため、外国人留学生が留学生生活を継続していくためには、一過性で終わらない総合的なサポートが必要だと言えるであろう。

留学生教育学会の会長である近藤（2020）は「新型ウイルス禍中においての留学生をはじめとする外国人ケアについて」と題して、緊急アピールを行い4つの提案を行っている。

- ①外国人住民を弱者にしないため、疾病・医療情報などを含めた外国人向けの適切な情報発信の工夫
- ②社会との適切な接点を保持するため、日本語学校やボランティアによる教室などの維持
- ③在留資格を含めた国の制度の柔軟な運用
- ④様々な予算の再配分を含めた資源の最適化

これら4つの提案を実現するのは難しいかもしれない。しかし、近藤（2020）が「いまこそがマイノリティの痛みも分かち合うことが出来る共生社会に脱皮するための正念場」と述べているように、従来の枠組みにとらわれない思いきった支援が重要だと考える。

3. 調査概要

本調査は留学生教育学会が2020年4月に実施した調査を参考にアンケート用紙（日本語版）を作成しWEBで札幌大学の外国人留学生に実施した。調査にあたっては事前に一部の外国人留学生に点検をもらった。その理由としては質問項目や日本語の難易度が適正かどうかを点検するためである。

3-1. 調査の目的

新型コロナウイルス感染症が札幌大学の外国人留学生に与えている影響をアンケート調査により概観し、支援体制について考察する。

3-2. 調査方法

調査期間：2021年3月11日～5月7日

調査対象者：学部相当生 44名（私費外国人留学生 31名、転入外国人留学生 9名、編入外国人留学生 3名）大学院生 1名
（日本未入国外国人留学生は対象外）

回答率：21（47.7%）

有効回答率：18（40.9%）

アンケート調査は、可能な限り短時間で回答ができるよう質問項目を減らし、新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み紙媒体での配布ではなく、Google Formsで作成し札幌大学国際交流センター（SUICC）から回答Formsを送信した。

調査内容は、以下12の質問項目から構成されている。質問項目2と6は選択解答とし、質問項目3と5および7～9は、複数回答とし、それぞれ新型コロナウイルス感染症が与えた影響について回答を求めた。質問項目4と12は、感染拡大を受け、困っていることやどのような支援を求めているかを記述形式で回答させた。

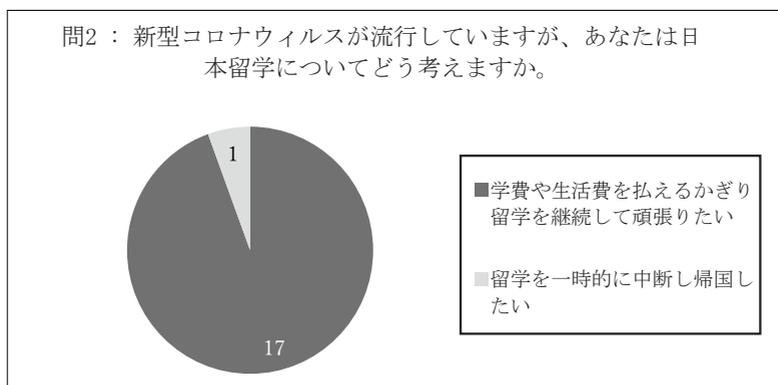
質問項目

1. あなたの性別を教えてください。（選択解答）
2. 新型コロナウイルスが流行していますが、あなたは日本留学についてどう考えますか。（選択解答）
3. 新型コロナウイルス流行を受け、あなたが困っていることをすべて選んでください。（複数回答）
4. 困っていることについて詳しく教えてください。（記述回答）

5. コロナウイルス感染症に関する情報をどこから得ていますか。3つまで選べます。(複数回答)
6. 国・札幌市・大学の経済的支援を申請しましたか。(選択解答)
7. 6で「はい」と答えた人に聞きます。どの支援を申請しましたか。当てはまるものをすべて選んでください。(複数回答)
8. 効果があった支援をすべて選んでください。(複数回答)
9. 8で「効果があった支援を選んだ」人に聞きます。どのような効果がありましたか。(複数回答)
10. 6で「いいえ」と答えた人に聞きます。申請しなかった理由を教えてください。
11. 10で「申請しなかった理由」を答えた人に聞きます。もう一度支援があれば申請したいですか。(選択解答)
12. あなたは日本政府や札幌大学など関係機関にどのような支援をしてほしいですか。(記述回答)

4. 調査結果

4-1. 新型コロナウイルス感染症が与えた日本留学への影響について



図表1：新型コロナウイルス感染症が与えた日本留学への影響

まず、新型コロナウイルス感染症が外国人留学生に与えた日本留学への影響について図表1のグラフが示すように、「学費や生活費を払えるかぎり留学を継続して頑張りたい」が17名(94.4%)と大多数を占めている。次いで、「留学を一時的に中断し帰国したい」が1名(5.5%)であった。留学を継続したいと回答した外国人留学生は94.4%を占めたが、これは「学費や生活費を払えるかぎり」と条件つきであり、新型コロナウイルス感染症の影響により経費支弁者の収入が減少した場合やアルバイトができない、または雇い止め等にあい、家計を維持できない状況が続けば、留学の継続が困難となることを意味する。次に、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、外国人留学生が困っていると感じていることについて見てみる。

4-2. 新型コロナウイルス感染症の拡大で困っている事柄について

進路(進学・就職)	7	38.8%
教育(オンライン授業についていけないなど)	3	16.6%
友人・先輩と話す機会がない	5	27.7%
金銭(お金がない)	11	61.1%
一時帰国ができない	14	77.7%
親が心配している	12	66.6%
体調が悪い(食欲がない・眠れない・不安が強いなど)	3	16.6%
困っていることがない	0	0%

図表2：新型コロナウイルス感染症の拡大で困っていると感じている割合

図表2が示すように、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、外国人留学生が困っていると感じている項目の割合は、「一時帰国ができない」、「親が心配している」、「金銭(お金がない)」、「進路(進学・就職)」、「友人・先輩と話す機会がない」、「教育(オンライン授業についていけないなど)」、「体調が悪い(食欲がない・眠れない・不安が強いなど)」の順となっている。その中でも「一時帰国ができない」、「親が心配している」、「金銭(お金がない)」の3項目で高い結果となった。この「一時帰国ができない」は留

学を一時中断することではなく、新型コロナウイルス感染症の拡大から生じた各国の防疫措置や渡航制限、国際便の減便、運賃の高騰などによって国際的な人の往来が制限されている現状から選択したと考えられる。

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、困っていることについて自由回答を求めたところ最も多かったのは、「アルバイトや金銭に関すること」と「一時帰国に関すること」であり、次に「生活に関すること」、「大学に関すること」、「問題ない」の順で記述があった。まず、「アルバイトや金銭に関すること」だが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けた飲食店が時短営業や休業を行っていることから、アルバイト収入が減少し生活費の支弁が難しくなったと考えられる。また、新型コロナウイルス感染症が中国の武漢で発生したと報道されていることから、中国人留学生への偏見や中国製への悪意ある言葉にストレスを抱えている外国人留学生もいた。

「生活に関すること」として、マスク着用の息苦しさや自らが新型コロナウイルス感染症に感染するのではないかと恐怖心を抱く者や大学に対してオンライン授業を求める記述もあった。以下は外国人留学生が記述したものであるが、文体等は修正せず原文のままとしている。

〈困っていることについて詳しく教えてください。(記述回答)〉

アルバイトや金銭に関すること (3件)

女性：安全感がないし、自分で生活費をバイトで稼いでいるから、生活費の負担は大きくなった。また、中国人として、バイトする時も、中国製のもの嫌だという話しをよく聞こえ、精神的プレッシャーを感じた。親も結構心配させて、日本で仕事を探すのをやめた。

男性：バイトができなくて、生活が辛くなった。

女性：お金がないです。

一時帰国に関すること (3件)

女性：一番困っているのは一時帰国できないことでした。

女性：お母さんが病気になりました。帰国できないと困っている。

女性：帰国できない。

生活に関すること（1件）

女性：自分も病気になるのが怖いし、いつもマスクをしているので、呼吸が疲れます。

大学の授業等に関すること（1件）

男性：オンライン授業おねがいしたいです。

問題ない（1件）

男性：特にない。

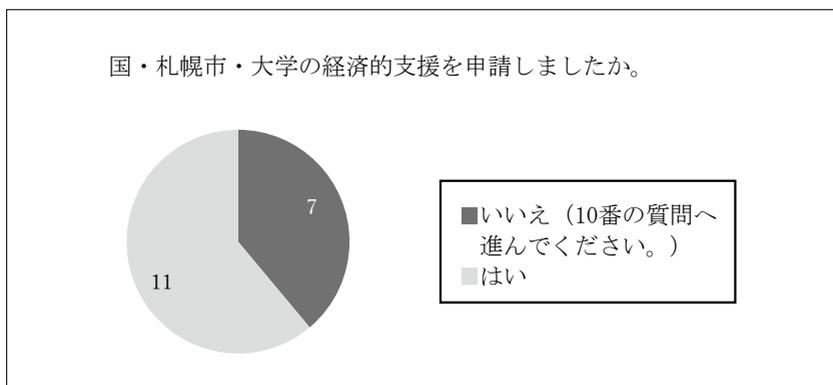
4-3. 情報収集先について

家族と友人	10	55.5%
札幌大学の教職員（SUICC やゼミ、日本語のクラス）	7	38.8%
札幌国際交流センター	1	5.5%
日本のメディアや SNS	15	83.3%
母国のメディアや SNS	17	94.4%
地域のコミュニティー	1	5.5%

図表3：外国人留学生の情報収集先

新型コロナウイルス感染症に関する情報収集先としては、図表3が示すように「母国のメディアや SNS」、「日本のメディアや SNS」、「家族と友人」、「札幌大学の教職員（SUICC やゼミ、日本語のクラス）」、「札幌国際交流センター」、「地域のコミュニティー」の順で高い結果となった。札幌大学の教職員（SUICC やゼミ、日本語のクラス）からの情報提供が7人（38.8%）で「母国のメディアと SNS」、「日本のメディアと SNS」と比べて低い結果であった。札幌大学国際交流センター（SUICC）では、授業や在留に関する情報の発信は適宜実施しているが、新型コロナウイルス感染症に限定した情報の発信、北海道や札幌市の感染者数などの情報の発信は行っていない。また、新型コロナウイルス感染症の影響により対面授業から遠隔授業へと変更になるなど、ゼミや授業において教員からの情報を受け取る機会が減少したため、低い結果となったと考えられる。

4-4. 経済的支援の申請状況及び申請先について



図表 4：経済的支援の申請状況

授業料減免等支援家計急変(10万円 申込期間：6月1日～7月10日)	3
授業料減免等支援 家計急変なし (5万円 申込期間：6月1日～7月10日)	2
アルバイト収入急減等支援 (月2万円最長6ヶ月間 申込期間：6月1日～7月10日)	6
「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』(募集時期：5月19日以降)	2
札幌国際プラザの「食料支援プロジェクト」	0
申請したが名前は覚えていない。	3
JASSO	1
選択肢1か2を忘れていた	1

図表 5：申請した経済的支援

図表 4、5 は、国や札幌市、札幌大学が実施した経済的支援の申請結果を示している。ここでの経済的支援とは、日本政府が 2020 年 5 月に公表した「学生支援緊急給付金給付事業」(「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』。以下、「学生支援緊急給付金」とする)、札幌国際交流プラザが実施

した「食料支援プロジェクト」、札幌大学が2020年5月に公表した「(第1回)新型コロナウイルス感染症緊急総合対策」のことである。なお、札幌大学が実施した「(第1回)新型コロナウイルス感染症緊急総合対策」は、大きく分けて以下の3つに分けられる。

1 授業料減免等支援（給付制）

（新型コロナウイルス感染症の影響による）家計急変：給付額 10万円

家計急変なし：給付額 5万円

申請資格に学業基準あり

2 学生生活困窮支援

アルバイト収入急減等支援：月額2万円給付（最長6ヶ月）（給付制）

申請資格に学業基準あり

アルバイト雇用：遠隔授業サポート等のスタッフとして札幌大学が雇用する。採用時に申請書、履歴書、面接等の審査あり

3 遠隔授業対応支援：PCまたはタブレットの貸し出し

審査なし

図表4が示すように、何かしらの経済的支援を申請した外国人留学生は11名で、未申請が7名であった。なお、未申請については図表8で述べる。図表5では、11名がどの経済的支援を申請したのかを示している。外国人留学生の多くが申請したのが、「学生生活困窮支援」の「アルバイトの収入急減等支援」であり、次いで、「授業料減免等支援（家計急変）」、「授業料減免等支援（家計急変なし）」、「学生支援緊急給付金」、「JASSO」「選択肢1か2忘れていた」の順である。申請条件として併給が認められている経済的支援もあるため、図表4と図表5の人数は必ずしも一致しない。

4-5. 効果があった経済的支援について

授業料減免等支援 家計急変（10万円）	4
授業料減免等支援 家計急変なし（5万円）	3
アルバイト収入急減等支援（月額2万円）	7
「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』	2
札幌国際プラザの「食料支援プロジェクト」	0
名前は覚えていないが効果はあった	1
特に効果はなかった	0
JASSO	1

図表6：効果があった支援

図表6では、外国人留学生が受給した支援の効果を示している。これによると、効果のあった支援として「アルバイト収入急減等支援」、「授業料減免等支援 家計急変」、「授業料減免等支援 家計急変なし」の3つをあげている。しかし、本調査を実施したのは、上記の経済的支援が実施された約半年後である。このことから図表5の「選択肢1か2を忘れていた」、「申請した名前が覚えていない」や図表6の「名前は覚えていないが効果はあった」といった申請した支援の名称を忘れていた外国人留学生もおり、図表4、図表5と同様に図表6の回答数は一致しない。「アルバイト収入急減等支援」を申請した者と「アルバイト収入急減等支援」は効果があったと回答している者が多いことから、外国人留学生の家計は苦しい状況に陥っていると言える。

4-6. 経済的支援の用途について

家賃の足しにした	7
学費の足しにした	3
光熱費や食費の足しにした	6
オンライン授業に必要な機材を買う足しにした	2

図表7：経済的支援の用途

外国人留学生が受給した経済的支援の用途について図表7が示すように、「家賃の足しにした」、「光熱費や食費の足しにした」、「学費の足しにした」、「オンライン授業に必要な機材を買う足しにした」の順であった。学費や遠隔授業への対応よりも家賃や光熱費、食費へと充てていたが、これは月に一度の家賃が差し迫っていたことやアルバイトができず、生活に係る経費支弁に困っていたことなども考えられる。また、札幌大学が実施した「新型コロナウイルス緊急総合対策」の給付日は、第1回目が6月30日、第2回目が7月31日であったが、学費等納付金の期日は、春学期が5月1日、秋学期が9月30日であることから、学費等納付金の納付期日までに、ある程度の時間的余裕があり、家賃などの生活に係る費用に充てたのであろう。

4-7. 未申請理由について

支援があるのを知らなかった	3
申請に必要な書類を集められなかった	2
支援が必要なかった	2

図表8：経済的支援の未申請理由について

図表8は、図表4で国・札幌市・大学の経済的支援を申請していないと回答した7名の申請しなかった理由を示している。これによると、「支援があるのを知らなかった」が高く、次いで「申請に必要な書類を集められなかった」、「支援が必要なかった」となった。「申請に必要な書類を集められなかった」外国人留学生がいたが、これは母国から経費支弁者の収入証明書や源泉徴収票等を取り寄せるのに時間がかかったと考えられる。確かに母国から証明書類等を取り寄せるのには、時間がかかるが、不正受給を防止する観点から定められた添付書類を用意する必要がある。また、「新型コロナウイルス緊急総合対策」は、本学からの通知や公式ホームページに掲載するなど適宜情報発信をしていたが、情報発信の在り方については、今後の検討課題である。

はい	4
いいえ	2
無回答	1

図表9：未申請者の申請希望について

図表9は、図表4の経済的支援を申請していないと回答した7名に対して、今後、同等の経済的支援が実施された際、申請する意志の有無を示したものである。これによると、4名が「申請したい」と回答し、2名が「申請しない」と回答した。なお、この2名は図表8で「支援が必要なかった」と回答した者である。

4-8. 今後求める支援について

調査アンケートの最後に、今後どのような支援を求めるかを自由記述で求めたところ最も多かったのが、大学の学費等に関することであった。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により遠隔授業が実施されているが、外国人留学生のなかには大学の設備を利用していないため、学費等納付金全額を支払うことについて不満を持つ者もいた。一方、新型コロナウイルス感染症の影響によりアルバイト収入が減少したことから経済的支援を求める者や感染するリスクを減らすために遠隔授業を希望する者もいた。

〈あなたは日本政府や札幌大学など関係機関にどのような支援をしてほしいですか。(記述回答)〉

大学の学費等に関すること（5件）

女性：授業料減免

男性：学費の一部減免または金銭の支援

男性：学費を減少して、経済支援も欲しい

男性：授業料が減免すること、コロナ期間に学校で授業を受けてないから、正常的な授業料を支払うことが納得できません。

女性：オンライン授業のときは施設設備費を返却して欲しい

経済的支援について（4件）

女性：生活費用を支援してほしいです。

女性：経済的支援

男性：お金について

男性：まずコロナの原因で仕事が激減しています。学校は学生のために授業料を少し減らしてほしいです。そして、学校の授業方法はオンラインで行いたいです。病状の危険を避けるために、おねがいたします。

新型コロナウイルス感染症に関すること（2件）

女性：もっと PCR 検査が必要だと思います。

女性：ワクチン早く普及して欲しい、みんなが通常の生活に戻ってたいです。

その他（2件）

女性：今のままでは完璧だと思います

女性：いいえ

5. 考察

留学生教育学会と全国大学生生活協同組合連合会が2020年5月に実施した調査によると、アルバイトの収入が減少し家計収入が減った外国人留学生は全体の60%を超えており、札幌大学に在籍している一部の外国人留学生も同様に家計収入が減ったと回答していた。

現在、札幌大学には国費外国人留学生は在籍しておらず、私費外国人留学生のみが在籍している。基本的に私費外国人留学生は、経費支弁能力がある者とされるが、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大は、経費支弁にゆとりがあるとされる私費外国人留学生の家計にも影響を及ぼしていた。

近藤・石倉（2020）が実施した調査では、92%の外国人留学生が「留学を継続して頑張りたい」と回答しており、「一番、困っていること」としては「金銭」、「進路」の順で高い結果であった。また、外国人留学生が政府や学

校に期待する支援は、「金銭的支援」、「英語での情報提供」、「学習における支援」、「精神面での支援」、「新型コロナウイルスの感染を防ぐための物資の提供」であった。この調査と比較すると、札幌大学に在籍している外国人留学生の94.4%も学費や生活費が払えるかぎり条件つきではあるが、「留学を継続したい」と回答していた。最も困っていることとしては、「金銭」や「進路」ではなく、「一時帰国ができない」、「親が心配している」の順であり、一時帰国を希求している外国人留学生が多い結果となった。これは約1年間一時帰国ができない状況が続いたからだと考えられる。

政府や学校に期待する支援は、「大学の学費等に関すること」、「経済的支援について」、「新型コロナウイルス感染症に関すること」、「その他」の順であり、遠隔授業と学費等納付金の関係性に疑問を持つ外国人留学生もいる結果となったが、全体として経済的支援を求める回答が多かった。なお、特定の国に対する偏見からストレスを抱えている外国人留学生もいたため、「経済的支援」だけではなく、「精神面での支援」について検討が必要である。

6. おわりに

本稿では、札幌大学に在学する外国人留学生に対してWEBでアンケート調査を行い、新型コロナウイルスが外国人留学生に与えている影響を概観した。その結果、3つの課題が見えてきた。第1に、経済的な問題があげられる。受給した経済的支援の用途を見ても、家賃・光熱費の足しにしている外国人留学生が多く切羽詰まった状況であることがわかる。第2に、情報提供の難しさがあげられる。経済的支援を受けなかった理由について、支援の存在を知らなかったという回答が一番多く、支援を必要とする外国人留学生に情報が届いていないことが調査で明らかになった。第3に、精神的な支援についてである。困っている事柄として、「一時帰国ができないこと」、「親が心配していること」をあげている外国人留学生が多いことから、帰国の目処が立たず孤独や不安を感じながら生活していることが容易に推察される。これら3つの課題についての考察をもって、本稿のまとめとする。

第1の経済的な問題を解決するためにはどのような方策が考えられるか。現在、札幌大学には「緊急生活支援奨学金」という制度があるが、貸与型の奨学金で返還義務があるため、外国人留学生にとって申請しにくい状況がある。札幌大学の奨学金で外国人留学生を除外しているものはないが、外国人留学生が申請するには手続きが面倒なものもあり緊急時には見直しが必要である。さらに、学外の奨学金や寄付などの活用も検討すべきであると考えられる。なお、先述したとおり、外国人留学生の経済支援については、外国人留学生教育学会緊急アピール（近藤（2020））の中でも様々な予算の再配分を含めた資源の最適化を求めるものとして提案されている。このように、外国人留学生本人に与える影響や社会的関心を考えると、実効性のある経済支援の形をさらに考察するべきだが、残念ながら、現時点では十分な材料が揃っているとは言いがたい。今後の検討課題としたい。

第2の課題である外国人留学生を情報弱者にしないためにはどのような方策が考えられるか。菊澤（2020）は、災害時の外国人の持つ制約・傾向は、5つ（言語・前提条件・心理的不安・情報収集・多様な生活文化）に集約されるという。通常のコミュニケーションは、言語とその場に想定される状況が合わさって成立する。しかし、今般のような状況では対面のコミュニケーションが制限されているため、どこからどのような情報が発信されるのか想定するのが困難である。平時においては、日本語に問題がない外国人留学生であっても、緊急時・災害時に使用される用語が分かるとは限らない。あるいは、心理的不安から必要な情報であっても見過ごしてしまう可能性が高い。つまり、平時の日本語能力は判断基準とならず、災害時・緊急時における連絡方法の構築や訓練が必要だと考える。岩元（2011）は、外国人留学生を対象とした防災に対する意識調査で、外国人留学生の防災知識は母国での経験に影響を受けているとしている。また、情報提供は普段から外国人留学生と接している日本語学校からの情報提供が有効であることが明らかになったという。

これを札幌大学の状況に置き換えて考えてみよう。現在は札幌大学国際交流センター（SUICC）が中心になって外国人留学生に情報を提供している

が、非常時の際には、日頃から外国人留学生と接しているゼミ担当の教員や日本語教員も情報を発信することによって、情報被災者を減らすことができるのではないだろうか。いずれにしても、平時から外国人留学生との関係を密にして個々の事情や特性の存在を理解し、それらを考慮した支援体制が必要である。

第3の外国人留学生の精神的支援について、ストレスを軽減し孤独を和らげるために私たちは何ができるのであろうか。多くの授業が慣れない遠隔授業が中心で、ネットワークが限られている外国人留学生はストレスを解放することや孤独感を癒すことが難しい状況に置かれている。中にはアルバイトを失ったり、実生活において偏見や差別を受けた学生もあり、外国人留学生たちが抱えている精神的ストレスは計り知れない。村田（2021）はコロナ禍において対面を中心とした従来のサポートが十分機能しなくなった今、オンラインによるボランティア学生による学習支援とソーシャル・サポートの可能性をあげている。村田（2021）が担当する「多文化教育」科目の受講生が中心となり、やさしい日本語や英語で情報提供を行ったり、外国人留学生と社会をつなぐサポートとしてトピックを決めて、交流を行っている。日本語が十分ではない外国人留学生に対しては同じ国の外国人留学生が母国語でメンタルなサポートを行っている。

このような取組みは札幌大学においても非常に参考になる。現在、札幌大学においても久野が担当する地域創生実習（国際交流）という授業で札幌大学国際交流センター（SUICC）と連携し、日常的に継続して行うことができるオンラインによる交流の計画が進んでいる。受講生の「外国人留学生の中で一人でも困っている人や寂しい思いをしている人がいるのなら、失敗しても行う意義がある」という声を大切に非常時だけではなく平時においても使用できる方策を検討している。

本稿において、札幌大学の外国人留学生のコロナ禍における課題を明らかにし対策の基礎資料として提示できたのは一つの成果だと考える。しかし、有効回答率が40%と低く外国人留学生全体の状況を把握できず分析においても十分に検討できたとは言いがたい。このような結果となったのは、

WEBによるアンケート調査であったこと、やさしい日本語で作成した調査票ではあったが緊急時において外国人留学生の状況を考えず母国語で調査を行えなかったことが一因だと考える。調査方法は今後の検討課題としたい。

最後に、外国人留学生が非常時においても安心して大学生活を送れるということは、日本人学生にとっても、個々の状況や多様性を考慮したサポート向上につながることを述べておく。

引用・参考文献

- 岩元みなみ・石川孝重「留学生を対象とした地震防災に対する知識の現状と情報提供のあり方に関する検討」『日本女子大学家政学部紀要』2011年58号、63-70頁
- 勝間 靖「COVID-19の大学生への影響：日本における外国人学生を中心に」『Journal International Health』2020年Vol.35 No.2、89-91頁
- 菊澤育代「災害時に外国人が抱える課題－情報発信のあり方を考察する－」『都市政策研究』2020年第21号、25-38頁
- 近藤佐知彦・石倉佑季子「〈留学生教育学会〉新型コロナ流行と留学事業について緊急アンケート調査 日本で学ぶ外国人留学生」『アジアの友』2020年No.542、2-11頁
- 近藤佐知彦・石倉佑季子・中野遼子「報告 学校および留学生・日本人学生が直面した留学交流に関する令和2年の課題（4月から5月にかけてのアンケート調査報告）」『グローバル人材育成研究』2020年第8巻第1号、70-76頁
- 近藤佐知彦「【緊急アピール】新型ウィルス渦中における留学生をはじめとする外国人ケアについて」留学生教育学会（JAISE）、2020年3月6日（<https://jaise.org>）、2021年7月2日閲覧
- 村田晶子「孤立する留学生のオンライン学習支援とソーシャルサポートーコロナ禍でのボランティア学生の取り組みー」『多文化社会と言語教育』2021年Vol.1、14-29頁
- 「学校法人札幌大学 新型コロナウイルス感染症緊急総合対策の実施詳細について」札幌大学、2020年5月25日（<https://www.sapporou.ac.jp/news/sunews/2020/05250847.html>）、2021年6月25日閲覧
- 「『5月実施 緊急！大学生・院生向けアンケート』留学生集計結果報告」全国大学生生活協同組合連合会 広報調査部、2020年9月25日（https://www.univcoop.or.jp/covid19/recruitment/pdf/link03_pdf02.pdf）

(https://www.univcoop.or.jp/covid19/recruitment/pdf/link03_pdf01.pdf)、2021年5月31日閲覧

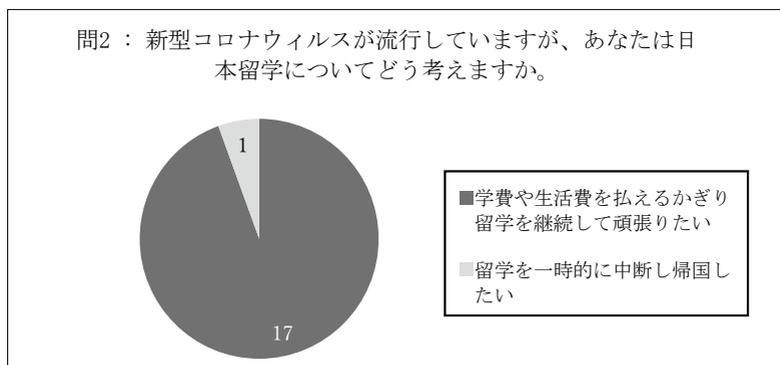
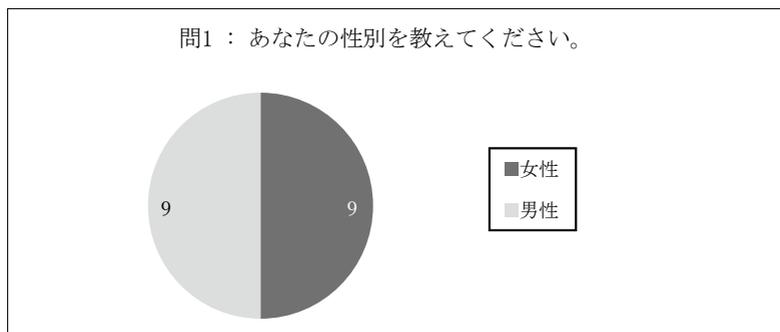
「学生支援緊急給付金給付事業」（「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』）
文部科学省、2020年5月19日

(https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/mext_00686.html) 2020年6月25日閲覧

謝辞

この報告をまとめるにあたり、アンケートに回答してくれた札幌大学の外国人留学生のみなさまに感謝します。大阪大学国際教育交流センターの近藤佐知彦先生、全国大学生生活協同組合連合会全国学生委員長の安井大幸様、札幌大学生生活協同組合の本家仁志様、札幌大学国際交流センター（SUICC）のみなさま、その他調査に協力いただいたすべての方に篤く御礼申し上げます。

〈資料〉



問3：新型コロナウイルス流行を受け、あなたが困っていることをすべて選んでください。

進路（進学・就職	7
教育（オンライン授業についていけないなど）	3
友人・先輩と話す機会がない	5
金銭（お金がない）	11
一時帰国ができない	14
親が心配している	12
体調が悪い（食欲がない・眠れない・不安が強いなど）	3
困っていることがない	0

問4：困っていることについて詳しく教えてください。(記述回答)

女性：自分も病気になるのが怖いし、いつもマスクをしているので、呼吸が疲れます

女性：一番困っているのは一時帰国できないことでした。

男性：オンライン授業おねがいしたいです

男性：特にない

女性：安全感がないし、自分で生活費をバイトで稼いでいるから、生活費の負担は大きくなった。また、中国人として、バイトする時も、中国製のものは嫌だという話しをよく聞こえ、精神的プレッシャーを感じた。親も結構心配させて、日本で仕事を探すのをやめた。(ママ)

男性：バイトができなくて、生活が辛くなった。

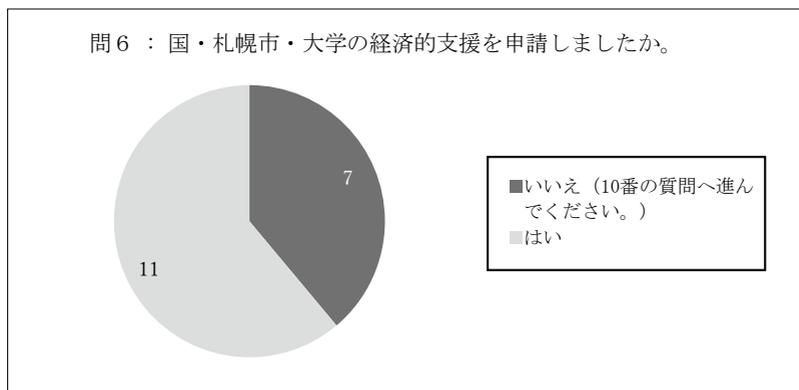
女性：お母さんが病気になりました。帰国できないと困っている

女性：帰国できない

女性：お金がないです。

問5：コロナウイルス感染症に関する情報をどこから得ていますか。3つまで選べます。

家族と友人	10
札幌大学の教職員 (SUICC やゼミ、日本語のクラス)	7
札幌国際交流センター	1
日本のマスメディアや SNS	15
母国のメディアや SNS	17
地域のコミュニティー	1



問7：問6で「はい」と答えた人に聞きます。どの支援を申請しましたか。
当てはまるものをすべて選んでください。

授業料減免等支援家計急変（10万円 申込期間：6月1日～7月10日）	3
授業料減免等支援 家計急変なし（5万円 申込期間：6月1日～7月10日）	2
アルバイト収入急減等支援（月2万円最長6ヶ月間 申込期間：6月1日～7月10日）	6
「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』（募集時期：5月19日以降）	2
札幌国際プラザの「食料支援プロジェクト」	0
申請したが名前は覚えていない。	3
JASSO	1

問8：効果があった支援をすべて選んでください。（複数回答可能）

授業料減免等支援 家計急変（10万円）	4
授業料減免等支援 家計急変なし（5万円）	3
アルバイト収入急減等支援（月額2万円）	7
「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』	2
札幌国際プラザの「食料支援プロジェクト」	0

名前は覚えていないが効果はあった	1
特に効果はなかった	0
JASSO	1

問9：8で「効果があった支援を選んだ」人に聞きます。どのような効果がありましたか。（複数回答）

家賃の足しにした	7
学費の足しにした	3
光熱費や食費の足しにした	6
オンライン授業に必要な機材を買う足しにした	2

問10：6で「いいえ」と答えた人に聞きます。申請しなかった理由を教えてください。

支援があるのを知らなかった	3
申請に必要な書類を集められなかった	2
支援が必要なかった	2

問11：10で「申請しなかった理由」を答えた人に聞きます。もう一度支援があれば申請したいですか。（選択解答）

はい	4
いいえ	2
無回答	1

問12：あなたは日本政府や札幌大学など関係機関にどのような支援をしてほしいですか。（記述回答）

女性：今のままでは完璧だと思います

女性：もっとPCR検査が必要だと思います。

男性：まずコロナの原因で仕事が激減しています。学校は学生のために授業料を少し減らしてほしいです。そして、学校の授業方法はオンラ

インで行いたいです。病状の危険を避けるために、おねがいたします。

女性：授業料減免

女性：経済的支援

男性：学費の一部減免または金銭の支援

男性：授業料が減免すること、コロナ期間に学校で授業を受けてないから、正常的な授業料を支払うことが納得できません。

男性：お金について

女性：オンライン授業のときは施設設備費を返却して欲しい

女性：ワクチン早く普及して欲しい、みんなが通常の生活に戻ってたいです。

女性：いいえ

男性：学費を減少して、経済支援も欲しい

女性：生活費用を支援してほしいです。